

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 120人

② 算数 120人

③ 理科 120人

5 留意事項

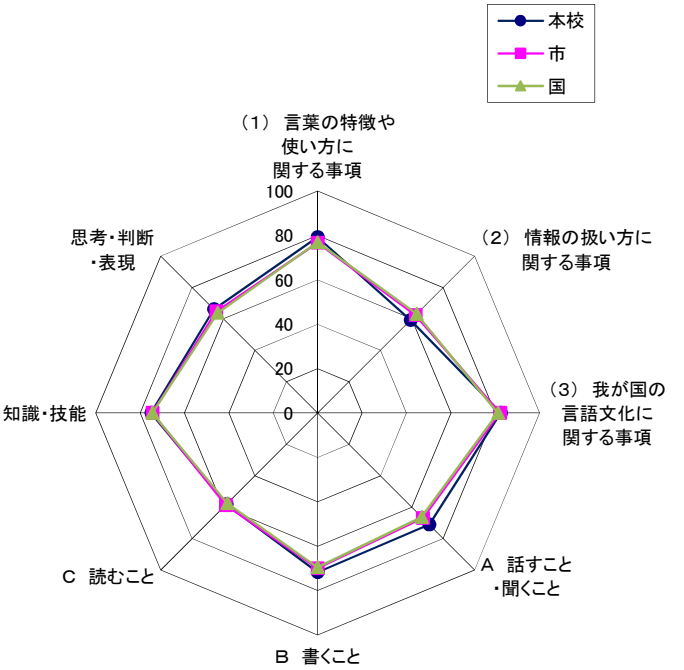
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	79.2	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	59.2	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	82.5	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	71.1	67.0	66.3
	B 書くこと	71.7	70.0	69.5
	C 読むこと	58.1	58.6	57.5
観点	知識・技能	75.0	74.5	74.5
	思考・判断・表現	66.1	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

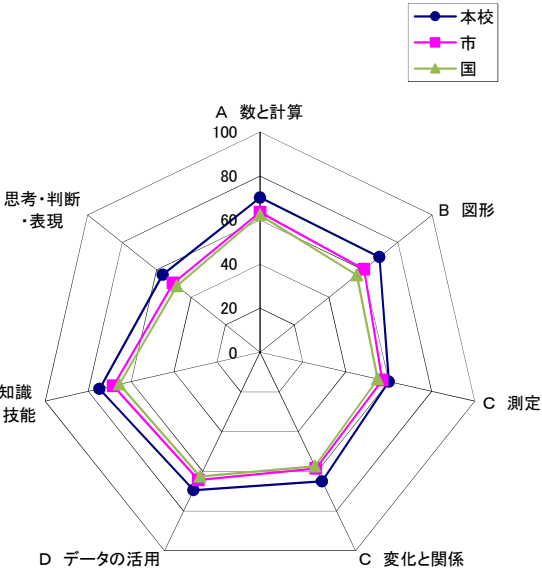
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、国の平均を2.3ポイント上回っている。 ○「このみ」の漢字の書き取りの正答率が88.3%と高かった。普段実施している漢字の小テストの成果が見られる。 ●「あつい」の漢字の書き取りの正答率が70.0%と低かった。同音異義語の区別課題が見られる。	・今後も普段の授業の中で、小テストを実施したり、同音異義語のプリントを活用したりして、自分で考えて正しい漢字を書く場を設定していく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、国の平均を3.9ポイント下回っている。 ●情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関連の表し方に課題が見られる。	・今後も普段の授業の中で、情報を整理したり、図や表に表したりする場を設定していく。説明文の学習では、筆者の論の進め方などを文章構成図に表す活動を取り入れていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、国の平均を1.3ポイント上回っている。 ○正答率が82.5%と、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解していると考える。	・幅広い種類の本に親しめるように働きかけ、言語感覚を豊かにしていく。 ・普段から聞きなじみのない言葉を辞書やインターネットで調べたり、自主学習でノートにまとめたりする学習を推奨する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、国の平均を4.8ポイント上回っている。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題では、国の平均を6.5ポイント上回った。 ●目的や意図に応じて情報を相互に関連づけ、伝え合う内容を検討することができているかをみる問題では、国の平均を3.4ポイント上回ったが、正答率56.7%と課題が見られる。	・国語の授業だけでなく、他教科や学級活動等の話し合いの中で、話し方、聞き方の指導を引き続き行っていく。話し合い活動を通して、お互いの意見を聞き入れ合い、まとめていく経験を重ねられるよう、意識的にそのような場面を設定していく。 ・自分の意見を伝える活動において、意識的に表現の工夫を記入できるようなワークシートを準備する。
B 書くこと	平均正答率は、国の平均を2.2ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができている。 ●自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる問題では、正答率57.5%と課題が見られる。	・今後も作文を書く手段として、書くことへの抵抗感が低くなり、推し進めやすくなる1人1台端末を活用する。 ・普段から1人1台端末を使って文章を書き、友達の文章と見比べたり助言し合いながら推敲したりする活動を取り入れる。 ・使う言葉や文字数を制限して文章を書く機会を設ける。
C 読むこと	平均正答率は、国の平均を0.6ポイント上回っている。 ○順序などを考えながら内容の大体を捉えることができるかをみる問題は、正答率84.2%と国の平均を2.6ポイント上回った。 ●正答率43.3%と、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することや必要な情報を見つけることに課題が見られる。	・普段の授業の中で物語や説明文を読む際に内容の読み取りを丁寧に行い、文章読解力を高める。また、物語や説明文とほかの資料を関連付けて読み取る力を高めるために、新聞やインターネット、図書資料からの情報を内容と結び付けて表現するよう指導する。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	70.2	63.6	62.3
	B 図形	69.4	60.4	56.2
	C 測定	60.0	56.9	54.8
	C 変化と関係	65.0	58.6	57.5
	D データの活用	69.5	64.4	62.6
観点	知識・技能	74.7	68.3	65.5
	思考・判断・表現	56.5	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

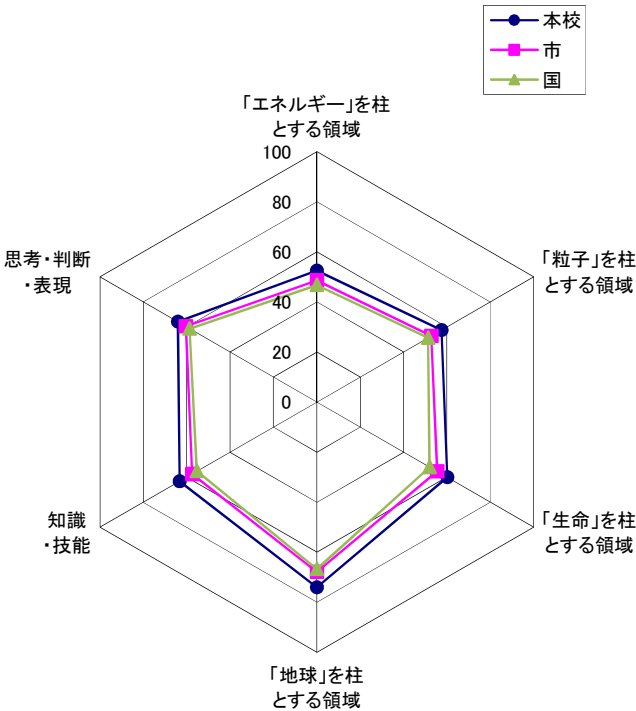
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、国の平均を7.9ポイント上回っている。 ○小数の加法について共通する単位を捉える問題では、児童の正答率は83.3%で県より9.2ポイント高かった。 ●分数の加法について、共通する単位分数を見つけ、数や言葉を用いて加法の仕方を記述する問題では、国の平均よりも11.2ポイント高かった。しかし、正答率は34.2%にとどまっている。また、無回答率が他の設問よりも多かった。	・今後も基礎・基本の定着を図りたい。 ・設問から、何を求める問題なのかを正確に把握し、必要なデータを読み取る活動を継続して行う。また、この領域に限らず、自分の言葉で説明したり書いたりする活動を取り入れていく。
B 図形	平均正答率は、国の平均を13.2ポイント上回っている。 ○台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題では、児童の正答率が70.8%で、国の平均より20.6ポイント高かった。 ●基本図形に分割することができる図形の面積のもとめ方を式や言葉を用いて説明できるかをみる問題は、国の平均より9.7ポイント高いものの、正答率が46.7%と課題が残った。	・具体物の操作を通して、図形の特徴を捉えたり、身近なものに関連させて理解を深めさせたりしたことが効果的であった。今後も継続して定着を図る。
C 測定	平均正答率は、国の平均より5.2ポイント上回っている。 ○はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる問題は、正答率61.7%で国の平均と同程度であった。 ●伴って変わる二つの数量関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の求め方を式や言葉を用いて記述できるかをみる問題は、国の平均より9.6ポイント高いものの、正答率58.3%であった。	・基礎的、基本的な数量関係を捉えるだけでなく、具体物を操作したり、実生活に基づくような学習内容を工夫することで、理解を深め、算数への応用力を高めていく。
C 変化と関係	平均正答率は、国より7.5ポイント高いが、他の領域と比べると正答率は低い状況にある。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかをみる問題は、正答率が88.3%で、国より5.5ポイント高かった。 ●「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表す問題の正答率は48.3%で、国の平均を7.4ポイント上回ったものの課題が残った。	・ペアやグループでの説明活動を増やして、友達との意見のやり取りによる学び合いの機会を増やし、説明する力を高めたことにより、定着を図ることができた。今後は、図や表と式を関連付けながら問題の意味を理解できるように指導を行う。
D データの活用	平均正答率は、国の平均を6.9ポイント上回っている。 ○●棒グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題では、国の平均より11.5ポイント高かった。しかし、正答率は42.5%にとどまっている。	・この設問は、適切なグラフを選択するだけでなく、変化を判断したり、その理由を考えたりすることが求められている。さらに、それを言葉や数を用いて記述することができなければならないので、何を求める問題なのかを正確に把握し、必要なデータを読み取る活動を継続して行う。また、この領域に限らず、自分の言葉で説明したり書いたりする活動を取り入れていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	52.5	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	57.5	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	60.2	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	74.0	67.9	66.7
観点	知識・技能	63.3	57.5	55.3
	思考・判断・表現	64.1	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、国の平均を5.8ポイント上回っている。 ○電磁石とコイルの巻数の関係を問う問題では、国の平均を7.0ポイント上回っている。電流が作る磁力についての基礎的な内容を理解していると考えられる。 ●身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物を区別する問題の正答率は15.0%であった。国の平均より高い結果であるが、さらなる向上を目指したい。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・金属の性質の学習において、生活の中で使われている物と金属の種類を結び付けられるように理解の定着を図る。 ・様々な教育活動の中で、学んだことを生かして応用していく場面を設定し、既習の内容を日常生活に活用していく力を高めていけるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、国の平均を3.1ポイント上回っている。 ○水の結露について、温度によって水の状態がどのように変化するのか選択する問題では、国の平均を12.5ポイント上回っている。水の状態変化(固体・液体・気体)について理解していると考えられる。 ●水の温まり方についての実験の方法が適切であるかを検討する問題では、国の平均を0.6ポイント上回ったが、正答率50.0%と課題が残った。	・水の温まり方の学習において、基礎的な知識や概念を復習するとともに、視覚的に捉えやすくしていくような学習活動をしていく。 ・実験の目的を明確に捉え、実験の結果から分かったことを自分自身で考察し、まとめる学習活動を行う。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、国の平均を8.2ポイント上回っている。 ○顕微鏡の使い方の問題では、国の平均を17.7ポイント上回っている。顕微鏡の基礎的な知識と使用方法について、理解していると考えられる。 ●種子の発芽条件について、新たな問題を見出し表現する問題では、正答率が35.0%であった。国の平均より高い結果であるが、さらなる向上を目指したい。	・実験の条件から差異点や共通点を見出し、新たな問題に取り組む連続的な学習活動を行う。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、国の平均を7.3ポイント上回っている。 ○粒の大きさによって水のしみ込む時間の違いを調べる実験における条件の設定を問う問題では、国の平均を8.0ポイント上回っている。対照実験の意味とやり方を理解していると考えられる。	・引き続き、実験の手順ややり方などを丁寧に確認しながら、学習活動を行う。 ・実験の過程で気付いたことや考えたことを、自分なりの言葉で記述したり発言したりする機会を設ける。

宇都宮市立小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○●国語、算数の学習についての全ての質問では、肯定的回答割合は国の平均を上回っていた。特に「国語、算数の授業内容がよく分かるか」については、国語で87.7%、算数で90.7%の児童が肯定的に回答していた。また、「授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」に対する肯定的回答割合も国の平均を大きく上回っていた。これらのことから児童は学習に興味や関心があり、今後に向けての意欲も高いことが分かる。これからも深い学びのある授業展開を工夫していきたい。理科の学習に関する質問では、多くの項目で肯定的回答割合が国の平均を下回った。特に「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問をもったり、問題を見いだしたりしていますか」の質問の肯定的回答割合が低いことから、日常生活の中で自然と触れ合う時間を増やしたり、動植物を上手に育てるにはどうすればいいか等について考えさせたりする機会を設けていきたい。

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○授業の様子についての質問では、「授業や学校生活では、友達や周りの考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」の問いに対する肯定的回答割合が高い。それは、国語や道徳、学級活動など授業の中でも、話し合う活動を取り入れ、互いの意見のよさに目を向けたり、自分の考えを伝えたりする活動を通して、児童が主体的に話し合い活動に取り組んでいたことによると思われる。今後も対話を取り入れた活動を授業の中に取り入れ、自分の考えを深められるようにしていきたい。また、全体の中でも自分の考えを発表し伝えることができるよう支援をしていきたい。

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に対しての肯定的回答割合は国の平均を上回っていた。意欲はあるが、放課後や休日に、地域の活動に参加している児童の割合が低かったため、参加につなげられるように呼びかけていきたい。

○生活の様子についての質問では、「自分にはよいところがあると思いますか」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」に肯定的に回答した児童の割合が非常に高かった。学校生活に、安心し、満足している様子がうかがえる。保護者の協力や学校生活の充実が、学習に向かう原動力となっていると考えられる。今後も、保護者と連携を図りながら、児童が充実した学校生活を送れるようにしていきたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「書く」「話す」活動を意図的かつ継続的に取り入れ、自分の考えを言語化し、他者と意見を交わす中で、思考を深め、主体的に表現する力の向上を図る。	・根拠や理由を明らかにし、順序だてて端的に話したり書いたりする指導を行っている。 ・授業以外の日常活動や、家庭学習等でも、自分の考えを表現する活動の工夫を行っている。 ・1つの事象を多面的に捉えたり、違った立場から意見を述べるなど、自分の考えを表現する活動を充実させている。	「書くこと」「話すこと」どちらにおいても国の平均を上回っている。特に、伝えたいことを明確にし、目的や意図に応じて段落構成や文章の構成を考える力が身に付いていると考えられる。しかし、書き表し方を工夫したり、自分の考えを根拠に基づいて述べたり、情報と情報を関連付けて自分の考えをもつことには課題が見られる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
既習の基礎的、基本的な学習内容を発展させて考えたり、それを日常生活に活用したりすることに課題がみられる。	基礎・基本を確実に定着させ、学習の成果を他の単元や他教科等における見方・考え方に関連付けながら課題解決に取り組めるようにする。	・調べたことや考えたことを文章にしたり、資料を使って発表したりする機会を設け、思考力や表現力を高める。 ・個の考えを表現する活動の時間を十分に確保する。 ・資料をもとに分かることを考察し、書いたり話し合ったりする活動を学年の発達の段階に応じて実施する。